

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信			6	10	7	
	電気電子工学科	夜・通信			6	10	7	
	電子制御工学科	夜・通信		4	4	8	7	
	情報工学科	夜・通信			11	15	7	
	都市環境デザイン工学科	夜・通信			24	28	7	
	機械・電子システム工学専攻	夜・通信		11	11	22	7	
	電気情報システム工学専攻	夜・通信		11	8	19	7	
	建設工学専攻	夜・通信		11	16	27	7	
(備考) ・本科：5学科 ・専攻科：3専攻								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・Web シラバス (https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50&lang=ja)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf)

[file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2024 年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学理事・ 副学長	2020年4月 1日～2024 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2024 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>例年、11月から1月末にかけて、次年度開講科目の授業担当者が決まり、授業担当者は、2月末までにシラバスを作成する。</p> <p>また、各学科の教務委員は、開講科目が「学習・教育到達目標」、「モデルコアカリキュラム」等とどのように関係しているかを確認し、科目割当て(紐付け)を行う。</p> <p>授業担当者は、シラバス上で、「科目情報」、「到達目標」、「ルーブリック」、「教育方法」、「授業計画」、「評価割合」を示し、学生へは、最初の授業でシラバスを配付し、授業の概要について説明する。</p> <p>シラバス公表は、Web上で4月上旬から公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>Web シラバス</p> <p>(https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50&lang=ja)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目、シラバス上で示されている授業計画に基づき、授業、小テスト、レポート課題、定期試験、答案返却・解説等が行われる。</p> <p>また、授業担当者は、シラバス上で示されている成績評価の割合に基づき、成績評価を行う。</p> <p>(1) 本科</p> <p>例年、定期試験を実施後、「成績会議」を開催している。(4回/年)</p> <p>(①前期中間試験、②前期末試験、③後期中間試験、④後期末試験(進級判定・卒業判定))</p> <p>この成績会議では、試験結果に基づき授業担当者が入力した「評価点」、「欠課時数」に基づき、学生毎の「総点」、「平均点」、「席次」、「修得単位数」等が示された会議資料を確認し、各科目の修得状況、学生の単位修得状況、得点の分布等について確認する。</p> <p>また、各科目の履修認定が行われる。</p> <p>(2) 専攻科</p> <p>例年、定期試験を実施後、「成績会議」を開催している。(2回/年)</p> <p>(①前期末試験、②後期末試験(専攻科成績会議・修了判定会議))</p> <p>この成績会議では、本科と同様に試験結果に基づき授業担当者が入力した「評価点」、「欠課時数」に基づき、学生毎の「総点」、「平均点」、「席次」、「修得単位数」等が示された会議資料を確認し、各科目の修得状況、学生の単位修得状況、得点の分布等について確認する。</p> <p>また、各科目の履修認定が行われる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価については、授業担当者がシラバスで示している成績評価の基準(評価割合)に基づき、前学期末と後学期末に100点法で成績を算出している。</p> <p>(参考)</p> <p>Webシラバス： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50&lang=ja</p> <p>各クラスの順位については、上記内容に基づき入力された各科目の成績を合算し、科目数で除した「平均点」に基づき順位づけが行われる。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>(https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/02/35f99a3015056e5b2c31c7cc2181cab5.pdf))</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学年の進級要件、各学科の卒業要件は、学生便覧、ホームページ上で公表して、学生及び教職員へ周知している。</p> <p>卒業認定（本科）、修了認定（専攻科）については、「卒業判定会議」、「修了判定会議」を開催し（開催：2～3月上旬）、学生毎の科目の履修認定、卒業認定、修了認定を行っている。</p> <p>○卒業要件（本科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席日数が、出席すべき日数の3分の2以上であること。 ・当該学年の必修科目の単位をすべて修得していること。 ・学科が指定する科目の単位を修得していること。 ・一般科目 75 単位、専門科目 82 単位を含んで 167 単位以上修得していること。 <p>○修了要件（専攻科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・62 単位以上（そのうち、すべての必修科目を含み一般科目 8 単位以上、専門共通科目 16 単位以上、専門科目 32 単位以上）修得していること。 ・連携教育プログラムの場合は、全ての必修科目を含み 62 単位以上修得していること。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧 ・ホームページ (1) 本科 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/a7ec521a3c6e53c99d86c894542380b5.pdf) (2) 専攻科 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/46dae3caf12cd0fc9887ee3e15733030.pdf)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和5年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中長期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:外部評価委員会から評価を受け、その結果をホームページ上に掲載している。 (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/disclosure/)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等) (概要) 本校は、中学校卒業後の5年間を通して一貫した教育を行うという特長を活かし、高等学校教育と大学教育とを有機的に関連させ、技術系大学と同程度の専門教育を行う。 技術者は、ともすれば視野の狭い職業人におちいる危険性があるので、社会に出た場合に高級技術者としてふさわしい豊かな教養を身につけ、健全な心身を養うように心掛けなければならない。 技術教育では基礎学力を身につけることと、実験と実習とによって技術を体得するために、クラス単位(40人)の授業を主として、教員と学生の交流を深めるように心掛けている。 のびのびとした学生会の活動と部活動により、各自の才能を伸ばし、また、寮生活を通して規則正しい生活態度を養い、広く学生間の友情を育てるなどに留意している。 更に、これらの目標を実現させるために、特に日常生活を通して、次の実行目標を定めている。 1. 礼儀を正しくしよう 2. 校内の美化に努めよう 3. 公德心を高めよう 4. 法令を遵守しよう 5. 健康を増進して体力を強めよう 機械工学科では、「あらゆるモノをつくる」ための機械工学の基本と幅広い専門知識を教授し、様々な産業分野で活躍できる創造性のある実践的な技術者を養成している。 そのため、機械を設計・製作・評価するための基礎知識や技術を教授し、実際に「モノ」をつくる実践力と創造力を養成している。特に実験・実習では、実際に材料の加工や機械の性能試験等を行うとともに、企業でのインターンシップ等を通じて実践力の向上を図っている。また、チームで協力して課題・問題解決に取り組む創造実習や卒業研究により、創造力を育成している。さらに、機械の自動化・高機能化に対応するため、情報処理、制御工学やメカトロニクス等の科目もカリキュラムに組込んでいる。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/a7ec521a3c6e53c99d86c894542380b5.pdf)、 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf)、学生便覧) (概要) 【機械工学科】(ディプロマ・ポリシー) 機械工学科では、「ものづくりの根幹を支える機械工学分野全般の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目標としています。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同(教育、活動)をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っております。 上記に掲げる人材となるためには、①本学科に在籍し、②以下に示す能力およびそれに関連する諸事項を身につけ、③卒業要件を満たすこと、が求められ、①～③を満たした学

<p>生に対して卒業を認定し、準学士と称することを認めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする能力 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を生きるための基礎知識 ・社会の様々な事柄に関心を持つことができる知的好奇心 ・技術と社会・自然との関連に、すすんで関心を持つ積極性 2. グローバルに活躍する能力 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝える表現力 ・英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝える語学力 ・自国の文化の理解に基づいた、他文化への理解と許容力 3. 創造力を活かし自立的にもものづくりに取り組む能力 <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識 ・コンピュータやその周辺機器を活用した文書・資料作成の技術 ・ネットワークを通しての有用な情報収集力 ・専門分野の学習や工学実験等を通して得られる専門分野の基礎的な知識 ・ものづくりと自主的継続的な学習を通して養われる創造性 ・本校で学んだ専門分野の知識に基づいた応用力 4. 相手の立場に立ってものを考える能力 <ul style="list-style-type: none"> ・技術者の社会的な責任と立場に関する理解 ・様々な文化・歴史などを通して身につける多様な価値観 ・異文化や自分と異なる考えを学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる想像力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ <https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、学生便覧等）

（概要）

【機械工学科】（カリキュラム・ポリシー）

鹿児島高専では、各学科のディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を育成します。あわせて、開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的に価値があるものを創出し、地域の産業・文化、さらには生活を支えていく技術者を育てるため、次のような教育課程を編成しています。入学時は学科別での入学となりますが、1年次は混合学級（※1）とし、日常的にすべての学科の学生と交流することで、技術者としての幅広い視野を養います。教育プログラムとしても、自学科も含めてすべての学科の実験・実習も体験できるように、「工学基礎実習」を設置しています。また、学生の能動的学習を促すため、1年次から共通PBL（※2）を導入します。その他、1年次には高専生として、また技術者として必要な情報リテラシーを身につけられるよう、各学科で「コンピュータリテラシー」を設置し、高専生として必要で、かつ正しい知識を習得させます。これは2年次以降の高度な情報教育の基礎となるだけでなく、専門教育のデジタル化・高度化を図り、高専在学中の学習全般の質を高めています。

2年次以降は、学科毎のクラス編成とし、すべての学年でPBL科目を設置し、学生の創造性の育成と能動的な学習の促進を図ります。各学科独自の専門科目はもとより、特に実験・実習を重視し、高専生に必要な技術の習得に重点を置く一方、幅広い教養を身につけるため、リベラルアーツ教育にも力を入れていきます。国語、外国語、社会などの人文社会系科目、また数学、物理、化学、体育など自然科学系科目に代表される通常の一般教育科目の他に、2年次には「リベラルアーツⅠ」、3年次には「リベラルアーツⅡ」を設置（※1）し、既存の科目にとらわれない、幅広い知識と教養を身につけるプログラムとなっています。また積極的に、ポートフォリオ教育やLMS（※3）を利用したオンラインでの学習も取り入れ、授業のサポートツールとして活用していきます。

各学科のコアカリキュラムをA群科目として配置し、その他の付随するカリキュラムを選

択できるよう B 群科目として配置する他、各学科が独自に必修科目を設置し、高専生として必ず身につけるべき知識と技術を教育していきます。

また、本校では最先端企業との共同教育も実施し、企業のエンジニアによる講義や特別講演などの充実を図り、既存の教育プログラムでは学べない、先端技術の教育にも力を入れています。正課のカリキュラムとしては、特別学修 A として「リベラルアーツ特別講義」を設置し、柔軟に幅広いリベラルアーツ教育を実施するとともに、特別学修 B には「地域創成特別講義」および「未来創造特別講義」を設置し、時代の流れに即した柔軟な企業との共同教育に対応できるようにしています。

5 年次には、「卒業研究」を設置し（情報工学科は 4 年次後期から）、それまでに学修した知識と技術の集大成として、卒業研究と卒業論文作成のための指導に当たります。

キャリア教育については、共同教育を実施している企業や他大学の協力のもと、低学年から特別講演を実施し、いち早くエンジニアリングの最先端の情報を学び、学生自身のキャリア形成を図る一方、4 年次にはインターンシップとして「工場実習 A、B」を開設しています。本校では就職のみならず、大学編入学にも対応できるよう、その支援に力を入れ、キャリア支援室を中心に学生の就職・進学に資する取り組みを行います。

成績評価にあたっては、本校のディプロマ・ポリシーに掲げる、育成する人材像を踏まえ、また、高専機構の定めるモデルコアカリキュラムに従い、授業科目ごとに目的・到達目標およびルーブリックを設定し、履修者の達成度に応じて行っています。

基本的には 100 点満点で採点するすべての科目について、優・良・可・不可の 4 段階とし、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし単位の修得を認める。60 点未満の場合は不可とし、その科目は不合格とします。

工場実習 A・B および、特別学修 A～C など、一部の科目においては、合・否の 2 段階で成績評価を行えるものとします。

※1 令和 4 年度新入生から導入。

※2 PBL とは Project-Based Learning（課題解決型学習）の略で、特定のテーマについて学生自身が課題を見出し、グループで取組み、解決策を探る学習方法です。

※3 LMS とは学習管理システム（Learning Management System）のことで、e ラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムを指します。

以下、学科ごとの教育課程の編成方針について説明します。

【機械工学科】

機械工学科では、基礎科目（物理学および数学）、ならびに、力学系科目（材料力学、機械力学、熱力学、流体力学）をはじめとする専門科目（材料学、工作、設計、制御等）を配置します。また、実践的な技術を習得する科目として、工作実習、設計・製図、工学実験を配置します。さらに、創造性およびデザイン能力を高め、ものづくりの過程を学ぶため、デザイン系科目（プロダクトデザイン、デジタルデザイン、創造デザイン、卒業設計）を配置します。ここで、機械工学と融合・複合する分野にも対応するため、知能・情報系科目（コンピュータリテラシ、AI 基礎、情報処理、回路情報工学、メカトロニクス等）を配置します。なお、自主的に活動し、対話、課題発見、調査、分析、問題解決、発表、討論の能力を高めるための PBL 科目として、デザイン系科目に加え、メカトロニクス演習を配置します。そして、5 年次には、全ての科目の総まとめとして、自ら、答えのない工学的問題や課題を発見して考え、計画的に取り組み、論理的に解決策を導いていく問題解決能力を高めるため、卒業研究を配置します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ <https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/2081ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>）、募集要項等

<p>(概要)</p> <p>(アドミッションポリシー)</p> <p>I. 求める学生像</p> <p>本校の学習・教育到達目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れる。特に、次のような人を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な思考ができる人 2. ものづくりが好きな人 3. コミュニケーション能力のある人 4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人 <p>II. 入学者選抜の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接の結果をもとに総合的に判定する。 ・学力選抜 学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 ・帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象となる。 ・編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査・口頭試問・面接の結果及び調査書、推薦書の内容を基に総合的に判定する。

<p>学部等名 電気電子工学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、中学校卒業後の5年間を通して一貫した教育を行うという特長を活かし、高等学校教育と大学教育とを有機的に関連させ、技術系大学と同程度の専門教育を行う。</p> <p>技術者は、ともすれば視野の狭い職業人におちいる危険性があるので、社会に出た場合に高級技術者としてふさわしい豊かな教養を身につけ、健全な心身を養うように心掛けなければならない。</p> <p>技術教育では基礎学力を身につけることと、実験と実習とによって技術を体得するために、クラス単位（40人）の授業を主として、教員と学生の交流を深めるように心掛けている。</p> <p>のびのびとした学生会の活動と部活動により、各自の才能を伸ばし、また、寮生活を通して規則正しい生活態度を養い、広く学生間の友情を育てるなどに留意している。</p> <p>更に、これらの目標を実現させるために、特に日常生活を通して、次の実行目標を定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼儀を正しくしよう 2. 校内の美化に努めよう 3. 公德心を高めよう 4. 法令を遵守しよう 5. 健康を増進して体力を強めよう <p>私たちの身の回りにあるAI搭載ロボット、スマートフォンからスマートグリッドのように産業を支えている電力に至るまで、電気電子に関わる製品等は、全て電気回路、電子回路あるいはソフトウェアをもとにしている。</p> <p>電気電子工学科では、人々の暮らしを豊かにする自動運転の自動車、IoTシステム、脳波で動くシステム、病気を治すマイクロロボットなどの革新的な次世代のモノづくりやシス</p>

テムを実現するために、電気電子工学の知識を応用した設計・開発ができる技術者・研究者を育成することを目標にしている。

この目標のために、次世代システムの回路またはソフトウェアを設計・実装するための基礎を学習し、実験・実習・卒業研究などによりこれらの基礎を融合させて応用できるカリキュラム構成としている。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ（<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/a7ec521a3c6e53c99d86c894542380b5.pdf>）

（<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>）、学生便覧）

（概要）

【電気電子工学科】（ディプロマ・ポリシー）

電気電子工学科では、「電気電子・情報通信技術の基礎を着実に修得し、ハードウェアとソフトウェアの融合技術を含めた多様な分野において、新たな社会的価値創出に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目標としています。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同（教育、活動）をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っております。

上記に掲げる人材となるためには、①本学科に在籍し、②以下に示す能力およびそれに関連する諸事項を身につけ、③卒業要件を満たすこと、が求められ、①～③を満たした学生に対して卒業を認定し、準学士と称することを認めます。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする能力
 - ・現代社会を生きるための基礎知識
 - ・社会の様々な事柄に関心を持つことができる知的好奇心
 - ・技術と社会・自然との関連に、すすんで関心を持つ積極性
2. グローバルに活躍する能力
 - ・日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝える表現力
 - ・英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝える語学力
 - ・自国の文化の理解に基づいた、他文化への理解と許容力
3. 創造力を活かし自立的にものづくりに取り組む能力
 - ・専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識
 - ・コンピュータやその周辺機器を活用した文書・資料作成の技術
 - ・ネットワークを通しての有用な情報収集力
 - ・専門分野の学習や工学実験等を通して得られる専門分野の基礎的な知識
 - ・ものづくりと自主的継続的な学習を通して養われる創造性
 - ・本校で学んだ専門分野の知識に基づいた応用力
4. 相手の立場に立ってものを考える能力
 - ・技術者の社会的な責任と立場に関する理解
 - ・様々な文化・歴史などを通して身につける多様な価値観
 - ・異文化や自分と異なる考えを学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる想像力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、学生便覧等）

(概要)

【電気電子工学科】（カリキュラム・ポリシー）

鹿儿岛高专では、各学科のディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を育成します。あわせて、開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的に価値があるものを創出し、地域の産業・文化、さらには生活を支えていく技術者を育てるため、次のような教育課程を編成しています。入学時は学科別での入学となりますが、1年次は混合学級（※1）とし、日常的にすべての学科の学生と交流することで、技術者としての幅広い視野を養います。教育プログラムとしても、自学科も含めてすべての学科の実験・実習も体験できるように、「工学基礎実習」を設置しています。また、学生の能動的学習を促すため、1年次から共通PBL（※2）を導入します。その他、1年次には高専生として、また技術者として必要な情報リテラシーを身につけられるよう、各学科で「コンピュータリテラシ」を設置し、高専生として必要で、かつ正しい知識を習得させます。これは2年次以降の高度な情報教育の基礎となるだけでなく、専門教育のデジタル化・高度化を図り、高専在学中の学習全般の質を高めています。

2年次以降は、学科毎のクラス編成とし、すべての学年でPBL科目を設置し、学生の創造性の育成と能動的な学習の促進を図ります。各学科独自の専門科目はもとより、特に実験・実習を重視し、高専生に必要な技術の習得に重点を置く一方、幅広い教養を身につけるため、リベラルアーツ教育にも力を入れていきます。国語、外国語、社会などの人文社会系科目、また数学、物理、化学、体育など自然科学系科目に代表される通常の一般教育科目の他に、2年次には「リベラルアーツⅠ」、3年次には「リベラルアーツⅡ」を設置（※1）し、既存の科目にとらわれない、幅広い知識と教養を身につけるプログラムとなっています。また積極的に、ポートフォリオ教育やLMS（※3）を利用したオンラインでの学習も取り入れ、授業のサポートツールとして活用していきます。

各学科のコアカリキュラムをA群科目として配置し、その他の付随するカリキュラムを選択できるようB群科目として配置する他、各学科が独自に必修科目を設置し、高専生として必ず身につけるべき知識と技術を教育していきます。

また、本校では最先端企業との共同教育も実施し、企業のエンジニアによる講義や特別講演などの充実を図り、既存の教育プログラムでは学べない、先端技術の教育にも力を入れています。正課のカリキュラムとしては、特別学修Aとして「リベラルアーツ特別講義」を設置し、柔軟に幅広いリベラルアーツ教育を実施するとともに、特別学修Bには「地域創成特別講義」および「未来創造特別講義」を設置し、時代の流れに即した柔軟な企業との共同教育に対応できるようにしています。

5年次には、「卒業研究」を設置し（情報工学科は4年次後期から）、それまでに学修した知識と技術の集大成として、卒業研究と卒業論文作成のための指導に当たります。

キャリア教育については、共同教育を実施している企業や他大学の協力のもと、低学年から特別講演を実施し、いち早くエンジニアリングの最先端の情報を学び、学生自身のキャリア形成を図る一方、4年次にはインターンシップとして「工場実習A、B」を開設しています。本校では就職のみならず、大学編入学にも対応できるよう、その支援に力を入れ、キャリア支援室を中心に学生の就職・進学に資する取り組みを行います。

成績評価にあたっては、本校のディプロマ・ポリシーに掲げる、育成する人材像を踏まえ、また、高専機構の定めるモデルコアカリキュラムに従い、授業科目ごとに目的・到達目標およびルーブリックを設定し、履修者の達成度に応じて行っています。

基本的には100点満点で採点するすべての科目について、優・良・可・不可の4段階とし、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし単位の修得を認める。60点未満の場合は不可とし、その科目は不合格とします。

工場実習A・Bおよび、特別学修A～Cなど、一部の科目においては、合・否の2段階で成績評価を行えるものとします。

※1 令和4年度新入生から導入。

※2 PBLとはProject-Based Learning（課題解決型学習）の略で、特定のテーマについて学生自身が課題を見出し、グループで取組み、解決策を探る学習方法です。

※3 LMSとは学習管理システム(Learning Management System)のことで、eラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムを指します。以下、学科ごとの教育課程の編成方針について説明します。

【電気電子工学科】

電気電子工学科ではディプロマ・ポリシーで掲げた4つの能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成し、実施します。

各目標とすべての科目の対応は、「準学士課程の教育」の「準学士(本科)課程学習・教育目標の達成度評価対象科目」に記載されています。

電気電子工学科では電磁気学、電気回路、電子回路等の基礎講義に加えて半導体工学、デジタル回路、デジタル信号処理、電気通信、情報処理、ソフトウェア応用、電気機器、パワーエレクトロニクス等の電気電子分野の応用に関する講義、電気電子工学実験、創造実習等の実践的能力を備えた技術者の養成を、5年次には、上記専門科目に加えて卒業論文作成のための研究を実施し、研究・開発およびプレゼンテーション能力を備えた技術者・研究者の養成を目的とします。

これらの科目群に関わる各科目の単位修得認定はシラバスに記載しますが、原則として期末試験(定期試験)等の結果を中心に、レポートや小テストなどの結果を総合的に判断して行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、募集要項等)

(概要)

(アドミッションポリシー)

I. 求める学生像

本校の学習・教育到達目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れる。特に、次のような人を求めている。

1. 論理的な思考ができる人
2. ものづくりが好きな人
3. コミュニケーション能力のある人
4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人

II. 入学者選抜の基本方針

・推薦選抜

学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接の結果をもとに総合的に判定する。

・学力選抜

学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。

・帰国子女特別選抜

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象となる。

・編入学

工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査・口頭試問・面接の結果及び調査書、推薦書の内容を基に総合的に判定する。

学部等名 電子制御工学科

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)、学生便覧等)

(概要)

本校は、中学校卒業後の5年間を通して一貫した教育を行うという特長を活かし、高等学校教育と大学教育とを有機的に関連させ、技術系大学と同程度の専門教育を行う。

技術者は、ともすれば視野の狭い職業人におちいる危険性があるので、社会に出た場合に高級技術者としてふさわしい豊かな教養を身につけ、健全な心身を養うように心掛けなければならない。

技術教育では基礎学力を身につけることと、実験と実習とによって技術を体得するために、クラス単位(40人)の授業を主として、教員と学生の交流を深めるように心掛けている。

のびのびとした学生会の活動と部活動により、各自の才能を伸ばし、また、寮生活を通して規則正しい生活態度を養い、広く学生間の友情を育てるなどに留意している。

更に、これらの目標を実現させるために、特に日常生活を通して、次の実行目標を定めている。

1. 礼儀を正しくしよう
2. 校内の美化に努めよう
3. 公德心を高めよう
4. 法令を遵守しよう
5. 健康を増進して体力を強めよう

最近の機器・装置には、コンピュータが組み込まれ、AI・DX・IoT技術の発展と共に、操作性・安全性・学習性・快適性・生産性の向上に大きく寄与している。また、これらを生産するための、FA(工場の自動化・無人化)による生産ラインは、コンピュータ、CAD・CAMシステム、NC工作機械、自動搬送装置、産業用ロボット等の最新鋭FA機器によってシステム化されている。

電子制御工学科では、このような技術的な変革を背景として、コンピュータや情報処理技術を手段として使用し、メカトロニクスの言葉で言い表されているように、メカニクス(機械技術)とエレクトロニクス(電子技術)が一体となった技術をもつ電子制御技術者の育成を目標としている。

このため電気・電子工学、機械工学、情報工学の各分野を有機的に結合させて、メカトロニクス技術に必要な理論を修得させると共に、実習・実験・卒業研究等を通して実践的な技術の体得と問題発見・問題解決に必要な思考力を身に付けさせるようにしている。

卒業の認定に関する方針(公表方法：ホームページ

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/a7ec521a3c6e53c99d86c894542380b5.pdf>)

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>)、学生便覧)

(概要)

【電子制御工学科】(ディプロマ・ポリシー)

電子制御工学科では、「多岐にわたる電子制御工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目標としています。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同(教育、活動)をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っております。

上記に掲げる人材となるためには、①本学科に在籍し、②以下に示す能力およびそれに関連する諸事項を身につけ、③卒業要件を満たすこと、が求められ、①～③を満たした学生に対して卒業を認定し、準学士と称することを認めます。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする能力
 - ・ 現代社会を生きるための基礎知識
 - ・ 社会の様々な事柄に関心を持つことができる知的好奇心

- ・技術と社会・自然との関連に、すすんで関心を持つ積極性
2. グローバルに活躍する能力
 - ・日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝える表現力
 - ・英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝える語学力
 - ・自国の文化の理解に基づいた、他文化への理解と許容力
 3. 創造力を活かし自立的にものづくりに取り組む能力
 - ・専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識
 - ・コンピュータやその周辺機器を活用した文書・資料作成の技術
 - ・ネットワークを通しての有用な情報収集力
 - ・専門分野の学習や工学実験等を通して得られる専門分野の基礎的な知識
 - ・ものづくりと自主的継続的な学習を通して養われる創造性
 - ・本校で学んだ専門分野の知識に基づいた応用力
 4. 相手の立場に立ってものを考える能力
 - ・技術者の社会的な責任と立場に関する理解
 - ・様々な文化・歴史などを通して身につける多様な価値観
 - ・異文化や自分と異なる考えを学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる想像力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208alae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、学生便覧等)

(概要)

【電子制御工学科】(カリキュラム・ポリシー)

鹿児島高専では、各学科のディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を育成します。あわせて、開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的に価値があるものを創出し、地域の産業・文化、さらには生活を支えていく技術者を育てるため、次のような教育課程を編成しています。入学時は学科別での入学となりますが、1年次は混合学級(※1)とし、日常的にすべての学科の学生と交流することで、技術者としての幅広い視野を養います。教育プログラムとしても、自学科も含めてすべての学科の実験・実習も体験できるように、「工学基礎実習」を設置しています。また、学生の能動的学習を促すため、1年次から共通PBL(※2)を導入します。その他、1年次には高専生として、また技術者として必要な情報リテラシーを身につけられるよう、各学科で「コンピュータリテラシ」を設置し、高専生として必要で、かつ正しい知識を習得させます。これは2年次以降の高度な情報教育の基礎となるだけでなく、専門教育のデジタル化・高度化を図り、高専在学中の学習全般の質を高めています。

2年次以降は、学科毎のクラス編成とし、すべての学年でPBL科目を設置し、学生の創造性の育成と能動的な学習の促進を図ります。各学科独自の専門科目はもとより、特に実験・実習を重視し、高専生に必要な技術の習得に重点を置く一方、幅広い教養を身につけるため、リベラルアーツ教育にも力を入れていきます。国語、外国語、社会などの人文社会系科目、また数学、物理、化学、体育など自然科学系科目に代表される通常の一般教育科目の他に、2年次には「リベラルアーツⅠ」、3年次には「リベラルアーツⅡ」を設置(※1)し、既存の科目にとらわれない、幅広い知識と教養を身につけるプログラムとなっています。また積極的に、ポートフォリオ教育やLMS(※3)を利用したオンラインでの学習も取り入れ、授業のサポートツールとして活用していきます。

各学科のコアカリキュラムをA群科目として配置し、その他の付随するカリキュラムを選択できるようB群科目として配置する他、各学科が独自に必修科目を設置し、高専生として必ず身につけるべき知識と技術を教育していきます。

また、本校では最先端企業との共同教育も実施し、企業のエンジニアによる講義や特別講演などの充実を図り、既存の教育プログラムでは学べない、先端技術の教育にも力を入れています。正課のカリキュラムとしては、特別学修Aとして「リベラルアーツ特別講義」

を設置し、柔軟に幅広いリベラルアーツ教育を実施するとともに、特別学修Bには「地域創成特別講義」および「未来創造特別講義」を設置し、時代の流れに即した柔軟な企業との共同教育に対応できるようにしています。

5年次には、「卒業研究」を設置し（情報工学科は4年次後期から）、それまでに学修した知識と技術の集大成として、卒業研究と卒業論文作成のための指導に当たります。

キャリア教育については、共同教育を実施している企業や他大学の協力のもと、低学年から特別講演を実施し、いち早くエンジニアリングの最先端の情報を学び、学生自身のキャリア形成を図る一方、4年次にはインターンシップとして「工場実習A、B」を開設しています。本校では就職のみならず、大学編入学にも対応できるよう、その支援に力を入れ、キャリア支援室を中心に学生の就職・進学に資する取り組みを行います。

成績評価にあたっては、本校のディプロマ・ポリシーに掲げる、育成する人材像を踏まえ、また、高専機構の定めるモデルコアカリキュラムに従い、授業科目ごとに目的・到達目標およびルーブリックを設定し、履修者の達成度に応じて行っています。

基本的には100点満点で採点するすべての科目について、優・良・可・不可の4段階とし、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし単位の修得を認める。60点未満の場合は不可とし、その科目は不合格とします。

工場実習A・Bおよび、特別学修A～Cなど、一部の科目においては、合・否の2段階で成績評価を行えるものとします。

※1 令和4年度新入生から導入。

※2 PBLとはProject-Based Learning（課題解決型学習）の略で、特定のテーマについて学生自身が課題を見出し、グループで取組み、解決策を探る学習方法です。

※3 LMSとは学習管理システム（Learning Management System）のことで、eラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムを指します。

以下、学科ごとの教育課程の編成方針について説明します。

【電子制御工学科】

電子制御工学科では、電気・電子工学、機械工学、情報工学の各分野の知識や技術を修得し、ロボットやAI・DX・IoTによるスマート社会をデザインするエンジニアの育成を目指します。そのために、電気回路、機械工作法、情報処理を中心とした基礎講義に加えて、工作実習、工学実験では実践的な技術の修得を目的とします。工作実習では、基礎講義で修得した基礎知識の確認を行い、工学実験では、電子制御工学に関する各種実験を通して的確な把握力と思考力、および解析能力を養うことを目的とします。また、創造設計ではそれまで修得した工学基礎知識を応用しながら、与えられたテーマを実現させるものづくりを体験することにより、創造性豊かな開発型技術者の育成を目的とします。さらに特別講座では、実社会で活躍している方々の講演を聴講することにより、技術の進歩に柔軟に対応できる技術者の育成を目的とします。

5年次には、学科専門科目に加えて卒業論文作成のための研究を実施します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、募集要項等）

（概要）

（アドミッションポリシー）

I. 求める学生像

本校の学習・教育到達目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れる。特に、次のような人を求めている。

1. 論理的な思考ができる人
2. ものづくりが好きな人
3. コミュニケーション能力のある人

<p>4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人</p> <p>Ⅱ. 入学者選抜の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接の結果をもとに総合的に判定する。 ・学力選抜 学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 ・帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象となる。 ・編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査・口頭試問・面接の結果及び調査書、推薦書の内容を基に総合的に判定する。

<p>学部等名 情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、中学校卒業後の5年間を通して一貫した教育を行うという特長を活かし、高等学校教育と大学教育とを有機的に関連させ、技術系大学と同程度の専門教育を行う。</p> <p>技術者は、とすれば視野の狭い職業人におちいる危険性があるので、社会に出た場合に高級技術者としてふさわしい豊かな教養を身につけ、健全な心身を養うように心掛けなければならない。</p> <p>技術教育では基礎学力を身につけることと、実験と実習とによって技術を体得するために、クラス単位（40人）の授業を主として、教員と学生の交流を深めるように心掛けている。</p> <p>のびのびとした学生会の活動と部活動により、各自の才能を伸ばし、また、寮生活を通して規則正しい生活態度を養い、広く学生間の友情を育てるなどに留意している。</p> <p>更に、これらの目標を実現させるために、特に日常生活を通して、次の実行目標を定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼儀を正しくしよう 2. 校内の美化に努めよう 3. 公德心を高めよう 4. 法令を遵守しよう 5. 健康を増進して体力を強めよう <p>電子計算機は単独で科学技術計算に使用されるのみでなく、交通管制システム、気象情報システム、行政情報システムなどのように、いくつかの装置と組み合わせて、システムとして使用されるようになってきている。そこで電子計算機をデータ処理や制御の中核にした情報システムを設計、製作できる情報技術者（システムエンジニア）が待ち望まれるようになった。</p> <p>情報工学科ではこのようなニーズに応えるべく、電子計算機のハードウェアとソフトウェアの両面に精通したうえで、情報システムの開発能力を備えたシステムエンジニアの育成を目標とした教育を行っている。電気・電子工学と電子計算機ソフト・ハード並びに通信工学・システム化技術を有機的に結合したカリキュラムを編成し、システム開発に必要な技術を修得できるようにし、さらに将来の幅広い進路にも対応できるようにしている。また、低学年から工学実験、演習を繰り返し行い、主体的に技術を体得する精神を養うとともに、学んだ知識を確実に定着させるようにしている。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/a7ec521a3c6e53c99d86c894542380b5.pdf>)

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>)、学生便覧)

(概要)

【情報工学科】（ディプロマ・ポリシー）

情報工学科では、「ソフトウェアやハードウェアはもちろん、それらに係わる情報セキュリティに対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目標としています。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同（教育、活動）をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っております。

上記に掲げる人材となるためには、①本学科に在籍し、②以下に示す能力およびそれに関連する諸事項を身につけ、③卒業要件を満たすこと、が求められ、①～③を満たした学生に対して卒業を認定し、準学士と称することを認めます。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする能力
 - ・ 現代社会を生きるための基礎知識
 - ・ 社会の様々な事柄に関心を持つことができる知的好奇心
 - ・ 技術と社会・自然との関連に、すすんで関心を持つ積極性
2. グローバルに活躍する能力
 - ・ 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝える表現力
 - ・ 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝える語学力
 - ・ 自国の文化の理解に基づいた、他文化への理解と許容力
3. 創造力を活かし自立的にものづくりに取り組む能力
 - ・ 専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識
 - ・ コンピュータやその周辺機器を活用した文書・資料作成の技術
 - ・ ネットワークを通しての有用な情報収集力
 - ・ 専門分野の学習や工学実験等を通して得られる専門分野の基礎的な知識
 - ・ ものづくりと自主的継続的な学習を通して養われる創造性
 - ・ 本校で学んだ専門分野の知識に基づいた応用力
4. 相手の立場に立ってものを考える能力
 - ・ 技術者の社会的な責任と立場に関する理解
 - ・ 様々な文化・歴史などを通して身につける多様な価値観
 - ・ 異文化や自分と異なる考えを学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる想像力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、学生便覧等)

(概要)

【情報工学科】 (カリキュラム・ポリシー)

鹿児島高専では、各学科のディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を育成します。あわせて、開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的に価値があるものを創出し、地域の産業・文化、さらには生活を支えていく技術者を育てるため、次のような教育課程を編成しています。入学時は学科別での入学となりますが、1年次は混合学級(※1)とし、日常的にすべての学科の学生と交流することで、技術者としての幅広い視野を養います。教育プログラムとしても、自学科も含めてすべての学科の実験・実習も体験できるように、「工学基礎実習」を設置しています。また、学生の能動的学習を促すため、1年次から共通PBL(※2)を導入します。その他、1年次には高専生として、また技術者として必要な情報リテラシーを身につけられるよう、各学科で「コンピュータリテラシ」を設置し、高専生として必要で、かつ正しい知識を習得させます。これは2年次以降の高度な情報教育の基礎となるだけでなく、専門教育のデジタル化・高度化を図り、高専在学中の学習全般の質を高めています。

2年次以降は、学科毎のクラス編成とし、すべての学年でPBL科目を設置し、学生の創造性の育成と能動的な学習の促進を図ります。各学科独自の専門科目はもとより、特に実験・実習を重視し、高専生に必要な技術の習得に重点を置く一方、幅広い教養を身につけるため、リベラルアーツ教育にも力を入れていきます。国語、外国語、社会などの人文社会系科目、また数学、物理、化学、体育など自然科学系科目に代表される通常の一般教育科目の他に、2年次には「リベラルアーツⅠ」、3年次には「リベラルアーツⅡ」を設置(※1)し、既存の科目にとらわれない、幅広い知識と教養を身につけるプログラムとなっています。また積極的に、ポートフォリオ教育やLMS(※3)を利用したオンラインでの学習も取り入れ、授業のサポートツールとして活用していきます。

各学科のコアカリキュラムをA群科目として配置し、その他の付随するカリキュラムを選択できるようB群科目として配置する他、各学科が独自に必修科目を設置し、高専生として必ず身につけるべき知識と技術を教育していきます。

また、本校では最先端企業との共同教育も実施し、企業のエンジニアによる講義や特別講演などの充実を図り、既存の教育プログラムでは学べない、先端技術の教育にも力を入れています。正課のカリキュラムとしては、特別学修Aとして「リベラルアーツ特別講義」を設置し、柔軟に幅広いリベラルアーツ教育を実施するとともに、特別学修Bには「地域創成特別講義」および「未来創造特別講義」を設置し、時代の流れに即した柔軟な企業との共同教育に対応できるようにしています。

5年次には、「卒業研究」を設置し(情報工学科は4年次後期から)、それまでに学修した知識と技術の集大成として、卒業研究と卒業論文作成のための指導に当たります。

キャリア教育については、共同教育を実施している企業や他大学の協力のもと、低学年から特別講演を実施し、いち早くエンジニアリングの最先端の情報を学び、学生自身のキャリア形成を図る一方、4年次にはインターンシップとして「工場実習A、B」を開設しています。本校では就職のみならず、大学編入学にも対応できるよう、その支援に力を入れ、キャリア支援室を中心に学生の就職・進学に資する取り組みを行います。

成績評価にあたっては、本校のディプロマ・ポリシーに掲げる、育成する人材像を踏まえ、また、高専機構の定めるモデルコアカリキュラムに従い、授業科目ごとに目的・到達目標およびルーブリックを設定し、履修者の達成度に応じて行っています。

基本的には100点満点で採点するすべての科目について、優・良・可・不可の4段階とし、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし単位の修得を認める。60点未満の場合は不可とし、その科目は不合格とします。

工場実習A・Bおよび、特別学修A～Cなど、一部の科目においては、合・否の2段階で成績評価を行えるものとします。

※1 令和4年度新入生から導入。

※2 PBLとはProject-Based Learning(課題解決型学習)の略で、特定のテーマについて学生自身が課題を見出し、グループで取組み、解決策を探る学習方法です。

※3 LMSとは学習管理システム (Learning Management System) のことで、eラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムを指します。以下、学科ごとの教育課程の編成方針について説明します。

【情報工学科】

情報工学科では、情報処理や論理回路、電子計算機等の科目を中心としたプログラミングやハードウェアに関する基礎的な講義や演習、実習の修得に加えて、オペレーティングシステムやヒューマンインタフェース、情報通信、情報ネットワーク等の基盤技術や、データサイエンスやサイバーセキュリティ、人工知能等の先端技術を修得することで、高い実践力や創造力を有する技術者あるいは研究者を育成することを目的とします。

卒業研究については4年次後学期から取り組みを開始し、研究の過程を余すことなく実践できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、募集要項等)

(概要)

(アドミッションポリシー)

I. 求める学生像

本校の学習・教育到達目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れる。特に、次のような人を求めている。

1. 論理的な思考ができる人
2. ものづくりが好きな人
3. コミュニケーション能力のある人
4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人

II. 入学者選抜の基本方針

・推薦選抜

学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接の結果をもとに総合的に判定する。

・学力選抜

学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。

・帰国子女特別選抜

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象となる。

・編入学

工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査・口頭試問・面接の結果及び調査書、推薦書の内容を基に総合的に判定する。

学部等名 都市環境デザイン工学科

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)、学生便覧等)

(概要)

本校は、中学校卒業後の5年間を通して一貫した教育を行うという特長を活かし、高等学校教育と大学教育とを有機的に関連させ、技術系大学と同程度の専門教育を行う。

技術者は、ともすれば視野の狭い職業人におちいる危険性があるので、社会に出た場合に高級技術者としてふさわしい豊かな教養を身につけ、健全な心身を養うように心掛けなければならない。

技術教育では基礎学力を身につけることと、実験と実習とによって技術を体得するために、クラス単位（40人）の授業を主として、教員と学生の交流を深めるように心掛けている。

のびのびとした学生会の活動と部活動により、各自の才能を伸ばし、また、寮生活を通して規則正しい生活態度を養い、広く学生間の友情を育てるなどに留意している。

更に、これらの目標を実現させるために、特に日常生活を通して、次の実行目標を定めている。

1. 礼儀を正しくしよう
2. 校内の美化に努めよう
3. 公德心を高めよう
4. 法令を遵守しよう
5. 健康を増進して体力を強めよう

人々の生活の場を「都市」と位置付け、国内外の都市が直面する諸問題を解決するための技術を学ぶ。そのために、基本の領域である道路、橋梁、港湾などの社会基盤の整備に関わる建設技術、自然災害に対する防災技術、開発に伴う環境破壊の防止と再生のための環境技術を学修する。同時に、居住空間に関する建築技術についても学修する。これらの技術を用いて地域に止まらず、国内そして海外の国々が直面する課題に取り組むことができる建設技術者の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/a7ec521a3c6e53c99d86c894542380b5.pdf>)

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>)、学生便覧)

(概要)

【都市環境デザイン工学科】（ディプロマ・ポリシー）

都市環境デザイン工学科では、「建設技術を通して様々な社会問題に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目標としています。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同（教育、活動）をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っております。

上記に掲げる人材となるためには、①本学科に在籍し、②以下に示す能力およびそれに関連する諸事項を身につけ、③卒業要件を満たすこと、が求められ、①～③を満たした学生に対して卒業を認定し、準学士と称することを認めます。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする能力
 - ・現代社会を生きるための基礎知識
 - ・社会の様々な事柄に関心を持つことができる知的好奇心
 - ・技術と社会・自然との関連に、すすんで関心を持つ積極性
2. グローバルに活躍する能力
 - ・日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝える表現力
 - ・英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝える語学力
 - ・自国の文化の理解に基づいた、他文化への理解と許容力
3. 創造力を活かし自立的にものづくりに取り組む能力
 - ・専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識

- ・コンピュータやその周辺機器を活用した文書・資料作成の技術
 - ・ネットワークを通しての有用な情報収集力
 - ・専門分野の学習や工学実験等を通して得られる専門分野の基礎的な知識
 - ・ものづくりと自主的継続的な学習を通して養われる創造性
 - ・本校で学んだ専門分野の知識に基づいた応用力
4. 相手の立場に立ってものを考える能力
- ・技術者の社会的な責任と立場に関する理解
 - ・様々な文化・歴史などを通して身につける多様な価値観
 - ・異文化や自分と異なる考えを学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる想像力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、学生便覧等)

(概要)

【都市環境デザイン工学科】 (カリキュラム・ポリシー)

鹿児島高専では、各学科のディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を育成します。あわせて、開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的に価値があるものを創出し、地域の産業・文化、さらには生活を支えていく技術者を育てるため、次のような教育課程を編成しています。入学時は学科別の入学となりますが、1年次は混合学級(※1)とし、日常的にすべての学科の学生と交流することで、技術者としての幅広い視野を養います。教育プログラムとしても、自学科も含めてすべての学科の実験・実習も体験できるように、「工学基礎実習」を設置しています。また、学生の能動的学習を促すため、1年次から共通PBL(※2)を導入します。その他、1年次には高専生として、また技術者として必要な情報リテラシーを身につけられるよう、各学科で「コンピュータリテラシー」を設置し、高専生として必要で、かつ正しい知識を習得させます。これは2年次以降の高度な情報教育の基礎となるだけでなく、専門教育のデジタル化・高度化を図り、高専在学中の学習全般の質を高めています。

2年次以降は、学科毎のクラス編成とし、すべての学年でPBL科目を設置し、学生の創造性の育成と能動的な学習の促進を図ります。各学科独自の専門科目はもとより、特に実験・実習を重視し、高専生に必要な技術の習得に重点を置く一方、幅広い教養を身につけるため、リベラルアーツ教育にも力を入れていきます。国語、外国語、社会などの人文社会系科目、また数学、物理、化学、体育など自然科学系科目に代表される通常の一般教育科目の他に、2年次には「リベラルアーツⅠ」、3年次には「リベラルアーツⅡ」を設置(※1)し、既存の科目にとらわれない、幅広い知識と教養を身につけるプログラムとなっています。また積極的に、ポートフォリオ教育やLMS(※3)を利用したオンラインでの学習も取り入れ、授業のサポートツールとして活用していきます。

各学科のコアカリキュラムをA群科目として配置し、その他の付随するカリキュラムを選択できるようB群科目として配置する他、各学科が独自に必修科目を設置し、高専生として必ず身につけるべき知識と技術を教育していきます。

また、本校では最先端企業との共同教育も実施し、企業のエンジニアによる講義や特別講演などの充実を図り、既存の教育プログラムでは学べない、先端技術の教育にも力を入れています。正課のカリキュラムとしては、特別学修Aとして「リベラルアーツ特別講義」を設置し、柔軟に幅広いリベラルアーツ教育を実施するとともに、特別学修Bには「地域創成特別講義」および「未来創造特別講義」を設置し、時代の流れに即した柔軟な企業との共同教育に対応できるようにしています。

5年次には、「卒業研究」を設置し(情報工学科は4年次後期から)、それまでに学修した知識と技術の集大成として、卒業研究と卒業論文作成のための指導に当たります。

キャリア教育については、共同教育を実施している企業や他大学の協力のもと、低学年から特別講演を実施し、いち早くエンジニアリングの最先端の情報を学び、学生自身のキャ

リア形成を図る一方、4年次にはインターンシップとして「工場実習A、B」を開設しています。本校では就職のみならず、大学編入学にも対応できるよう、その支援に力を入れ、キャリア支援室を中心に学生の就職・進学に資する取り組みを行います。

成績評価にあたっては、本校のディプロマ・ポリシーに掲げる、育成する人材像を踏まえ、また、高専機構の定めるモデルコアカリキュラムに従い、授業科目ごとに目的・到達目標およびルーブリックを設定し、履修者の達成度に応じて行っています。

基本的には100点満点で採点するすべての科目について、優・良・可・不可の4段階とし、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし単位の修得を認める。60点未満の場合は不可とし、その科目は不合格とします。

工場実習A・Bおよび、特別学修A～Cなど、一部の科目においては、合・否の2段階で成績評価を行えるものとします。

※1 令和4年度新入生から導入。

※2 PBLとはProject-Based Learning（課題解決型学習）の略で、特定のテーマについて学生自身が課題を見出し、グループで取り組み、解決策を探る学習方法です。

※3 LMSとは学習管理システム（Learning Management System）のことで、eラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムを指します。

以下、学科ごとの教育課程の編成方針について説明します。

【都市環境デザイン工学科】

都市環境デザイン工学科では、建設系分野のモデルコアカリキュラムを軸にして建築系のカリキュラムを加えた形で編成しています。建設系のカリキュラムでは、土木工学における三力、すなわち土質力学、水理学、構造力学を重要科目と位置づけ、建設技術者として必要不可欠な測量学、座学で学んだ知識の定着に効果的な各種実験及び都市計画等の科目を加えた科目構成となっています。建築系のカリキュラムでは、二級建築士の資格取得に必要な科目を中心に開講しており、建築学に関する基礎的知識を習得できます。本学科の特徴的な科目としてPBL科目である景観設計を開講しており、土木と建築の両方の知識を必要とする問題解決型の学習を行うことができます。また、キャリア教育として4年次には工学セミナーを開講し、進路指導に効果的な出前授業及び5年次の卒業研究を円滑にスタートさせるために各研究室への仮配属を行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2022/05/208a1ae0f1b5a80e219110c52c24f07a.pdf>、募集要項等）

（概要）

（アドミッションポリシー）

I. 求める学生像

本校の学習・教育到達目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れる。特に、次のような人を求めている。

1. 論理的な思考ができる人
2. ものづくりが好きな人
3. コミュニケーション能力のある人
4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人

II. 入学者選抜の基本方針

・推薦選抜

学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接の結果をもとに総合的に判定する。

・学力選抜

学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。

・帰国子女特別選抜

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象となる。

・編入学

工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査・口頭試問・面接の結果及び調査書、推薦書の内容を基に総合的に判定する。

学部等名 機械・電子システム工学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)、学生便覧等)

(概要)

専攻科では、本科における5年間の高専の教育を活かしながら、生産現場などで実践的に問題解決ができ、かつ最先端の技術にも精通した創造力豊かな開発型技術者の育成を目指している。

即ち、高専本科を卒業した学生並びに企業が派遣する社会人学生を対象に、科学技術の高度化、情報化及び国際化に対応した実践的工学知識と技術、さらに特に近年必要とされる環境問題に関する知識を教授する。また、大学工学部における技術教育とは異なった視点に立ち、国際化に対応でき、協調性と指導力ある創造性豊かな技術者を育成する。

本校には次の3専攻が設置されており、それぞれの専門の立場から、専攻科の授業や特別研究を担当している。専攻科修了と同時に学位(学士(工学))の取得が可能である。

- ・機械・電子システム工学専攻
- ・電気情報システム工学専攻
- ・建設工学専攻

機械・電子システム工学専攻では、機械技術と電子制御技術を基本としたハード面と情報システム技術をベースとするソフト面を統合したカリキュラムを編成している。また、グローバルに活躍できる技術者の育成を目指し、英文の技術資料の輪講を行いつつ、インターンシップや研究成果の学会発表を通して、国内外の研究機関や企業の実情を知り、仕事や職業に対する興味・関心を高め、問題解決の為の研究遂行能力を向上させる教育を行っている。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：(公表方法：ホームページ

(<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/46dae3caf12cd0fc9887ee3e15733030.pdf>)

<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf>、学生便覧))

(概要)

【機械・電子システム工学専攻】 (ディプロマ・ポリシー)

機械・電子システム工学専攻は、本校専攻科の学習・教育到達目標を達成するとともに、機械と制御技術を基本としたハード面、情報システム技術を基本としたソフト面を統合した分野において、環境に配慮した高付加価値製品の設計開発および実践的に問題解決できる開発型技術者を育成する。本専攻に在籍し、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf>、学生便覧等))

<p>(概要)</p> <p>【機械・電子システム工学専攻】（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者育成科目として、技術と社会のかかわり、環境科学、環境プロセス工学などを用意している。 2. グローバルに活躍する技術者育成科目として、国際関係論、総合英語、論理的英語コミュニケーションなどを用意している。 3. 創造力豊かな開発型技術者育成科目として、環境電磁気学、特別研究 I、特別研究 II などを用意している。 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者育成科目として、環境創造工学プロジェクトなどを用意している。 <p>学業成績の評価は、科目担当教員が試験の成績、平常の学習態度や出席状況等を総合的に評価して、原則として 100 点法で行います。各科目の具体的な評価方法はシラバスに記載している。評価の点数 60 点以上及び合の科目は、修得科目となり、単位の修得が認定される。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf、募集要項等)</p>
<p>(概要)</p> <p>(アドミッションポリシー)</p> <p>I. 本校の専攻科は「環境に配慮したものづくりができる技術者」育成を目指しており、その実現のために専攻科学生が達成すべき学習・教育到達目標が定められています。受け入れる人物として(1) 本校専攻科が育成を目指す技術者像を十分に理解し、(2) 学習・教育到達目標を達成して専攻科を修了できる資質を持った方を求めています。また、(2) については以下のことが求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語、数学、及び専門とする分野の基礎学力を備えていること 2. 論理的な記述や説明の基礎能力を備えていること 3. 新たな問題に取り組む積極性と計画性を備えていること <p>II. 入学者選抜の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 <p>入学者の選抜は、出願資格（調査書、推薦書及び志望理由書、TOEIC スコアまたは英検合格証）の内容をもって総合的に判定します。ただし、書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。面接を実施する方には、受験票送付時に面接を実施する旨を通知します。</p> ・学力選抜 <p>入学者の選抜は、出願書類及び学力検査並びに面接の結果を総合して行います。</p> ・社会人 <p>入学者の選抜は、出願書類及び面接の結果を総合して行います。</p>

<p>学部等名 電気情報システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等)</p>

<p>(概要)</p> <p>専攻科では、本科における5年間の高専の教育を活かしながら、生産現場などで実践的に問題解決ができ、かつ最先端の技術にも精通した創造力豊かな開発型技術者の育成を目指している。</p> <p>即ち、高専本科を卒業した学生並びに企業が派遣する社会人学生を対象に、科学技術の高度化、情報化及び国際化に対応した実践的工学知識と技術、さらに特に近年必要とされる環境問題に関する知識を教授する。また、大学工学部における技術教育とは異なった視点に立ち、国際化に対応でき、協調性と指導力ある創造性豊かな技術者を育成する。</p> <p>本校には次の3専攻が設置されており、それぞれの専門の立場から、専攻科の授業や特別研究を担当している。専攻科修了と同時に学位(学士(工学))の取得が可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械・電子システム工学専攻 ・電気情報システム工学専攻 ・建設工学専攻 <p>電気情報システム工学専攻では、電気・電子技術を基本としたハードウェア面と情報・通信技術を基本としたソフトウェア面だけでなく、システム制御や電子材料に至るまで幅広い分野に精通し、地球環境にやさしい高品質で付加価値の高い製品の設計・開発や制御システムあるいは情報システムなどを担当できる開発型技術者を育成することを教育目標としている。</p> <p>電気情報システム工学専攻の特色は、①有機的に結合した電気電子・情報工学のカリキュラムによる幅広い知識と柔軟性を備えた開発型技術者の育成、②少人数教育の利点を活かした指導による自主性、創造性、問題解決能力及び表現力を備えた開発型技術者の育成である。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：（公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/46dae3caf12cd0fc9887ee3e15733030.pdf https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf、学生便覧））</p>
<p>(概要)</p> <p>【電気情報システム工学専攻】（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>電気情報システム工学専攻は、本校専攻科の学習・教育到達目標を達成するとともに、ハードウェア及びソフトウェア技術からシステム制御や電子材料に至る幅広い分野に精通し、地球環境にやさしい高品質で高付加価値製品の設計・開発や制御システム・情報システムなどを担当できる開発型技術者を育成する。本専攻に在籍し、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf、学生便覧等））</p>
<p>(概要)</p> <p>【電気情報システム工学専攻】（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者育成科目として、技術と社会のかかわり、環境科学、環境プロセス工学などを用意している。 2. グローバルに活躍する技術者育成科目として、国際関係論、総合英語、論理的英語コミュニケーションなどを用意している。 3. 創造力豊かな開発型技術者育成科目として、環境電磁気学、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱなどを用意している。

4. 相手の立場に立ってものを考える技術者育成科目として、環境創造工学プロジェクトなどを用意している。

学業成績の評価は、科目担当教員が試験の成績、平常の学習態度や出席状況等を総合的に評価して、原則として100点法で行います。各科目の具体的な評価方法はシラバスに記載している。評価の点数60点以上及び合の科目は、修得科目となり、単位の修得が認定される。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf>、募集要項等)

(概要)

(アドミッションポリシー)

I. 本校の専攻科は「環境に配慮したものづくりができる技術者」育成を目指しており、その実現のために専攻科学生が達成すべき学習・教育到達目標が定められています。受け入れる人物として(1) 本校専攻科が育成を目指す技術者像を十分に理解し、(2) 学習・教育到達目標を達成して専攻科を修了できる資質を持った方を求めています。また、(2) については以下のことが求められます。

1. 英語、数学、及び専門とする分野の基礎学力を備えていること
2. 論理的な記述や説明の基礎能力を備えていること
3. 新たな問題に取り組む積極性と計画性を備えていること

II. 入学者選抜の基本方針

・推薦選抜

入学者の選抜は、出願資格（調査書、推薦書及び志望理由書、TOEICスコアまたは英検合格証）の内容をもって総合的に判定します。ただし、書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。面接を実施する方には、受験票送付時に面接を実施する旨を通知します。

・学力選抜

入学者の選抜は、出願書類及び学力検査並びに面接の結果を総合して行います。

・社会人

入学者の選抜は、出願書類及び面接の結果を総合して行います。

学部等名 建設工学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)、学生便覧等)

(概要)

専攻科では、本科における5年間の高専の教育を活かしながら、生産現場などで実践的に問題解決ができ、かつ最先端の技術にも精通した創造力豊かな開発型技術者の育成を目指している。

即ち、高専本科を卒業した学生並びに企業が派遣する社会人学生を対象に、科学技術の高度化、情報化及び国際化に対応した実践的工学知識と技術、さらに特に近年必要とされる環境問題に関する知識を教授する。また、大学工学部における技術教育とは異なった視点に立ち、国際化に対応でき、協調性と指導力ある創造性豊かな技術者を育成する。

本校には次の3専攻が設置されており、それぞれの専門の立場から、専攻科の授業や特別研究を担当している。専攻科修了と同時に学位(学士(工学))の取得が可能である。

- ・機械・電子システム工学専攻
- ・電気情報システム工学専攻
- ・建設工学専攻

建設工学は、市民が快適で安全な社会生活を送ることができる環境基盤整備を行う工学であることから、本専攻では鹿児島県特有の自然災害を含む環境問題を主要な教育研究教材として、地域に密着した環境・防災システムの構築に向けた展望の持てる、創造性豊かな開発型技術者の育成を目指している。

卒業の認定に関する方針（公表方法：（公表方法：ホームページ

（<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2023/05/46dae3caf12cd0fc9887ee3e15733030.pdf>

<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf>、学生便覧））

（概要）

【建設工学専攻】（ディプロマ・ポリシー）

建設工学専攻は、本校専攻科の学習・教育到達目標を達成するとともに、建設工学の基礎となる市民が快適で安全な社会生活を送ることができる環境基盤整備を行う工学を学び、人間としての倫理観を備えた技術者を育成する。また、地域に密着した社会基盤の構築に寄与することができる創造性豊かな開発型技術者を育成する。本専攻に在籍し、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf>、学生便覧等））

（概要）

【建設工学専攻】（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者育成科目として、技術と社会のかかわり、環境科学、環境プロセス工学などを用意している。
2. グローバルに活躍する技術者育成科目として、国際関係論、総合英語、論理的英語コミュニケーションなどを用意している。
3. 創造力豊かな開発型技術者育成科目として、環境電磁気学、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱなどを用意している。
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者育成科目として、環境創造工学プロジェクトなどを用意している。

学業成績の評価は、科目担当教員が試験の成績、平常の学習態度や出席状況等を総合的に評価して、原則として100点法で行います。各科目の具体的な評価方法はシラバスに記載している。評価の点数60点以上及び合の科目は、修得科目となり、単位の修得が認定される。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/10/cd97740e236ecbf8a3f2e624abf213ee-2.pdf>、募集要項等）

（概要）

（アドミッションポリシー）

I. 本校の専攻科は「環境に配慮したものづくりができる技術者」育成を目指しており、その実現のために専攻科学生が達成すべき学習・教育到達目標が定められています。受け入れる人物として(1) 本校専攻科が育成を目指す技術者像を十分に理解し、(2) 学習・教育到達目標を達成して専攻科を修了できる資質を持った方を求めています。また、(2) については以下のことが求められます。

1. 英語, 数学, 及び専門とする分野の基礎学力を備えていること
2. 論理的な記述や説明の基礎能力を備えていること
3. 新たな問題に取り組む積極性と計画性を備えていること

Ⅱ. 入学者選抜の基本方針

・推薦選抜

入学者の選抜は、出願資格（調査書、推薦書及び志望理由書、TOEIC スコアまたは英検合格証）の内容をもって総合的に判定します。ただし、書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。面接を実施する方には、受験票送付時に面接を実施する旨を通知します。

・学力選抜

入学者の選抜は、出願書類及び学力検査並びに面接の結果を総合して行います。

・社会人

入学者の選抜は、出願書類及び面接の結果を総合して行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>、学校要覧

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
機械工学科	—	3人	6人	0人	0人	0人	9人
電気電子工学科	—	3人	6人	1人	0人	0人	10人
電子制御工学科	—	5人	2人	1人	1人	0人	9人
情報工学科	—	3人	5人	0人	1人	0人	9人
都市環境デザイン工学科	—	4人	4人	0人	2人	0人	10人
一般教育科	—	8人	10人	4人	0人	0人	22人
専攻科	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
特命教授	—	0人	0人	0人	0人	1人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			55人				55人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=08&affiliationId=6716000000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	42人	105%	200人	208人	104%	若干名	2人
電気電子工学科	40人	42人	105%	200人	207人	103.5%	若干名	2人
電子制御工学科	40人	42人	105%	200人	215人	107.5%	若干名	2人
情報工学科	40人	41人	102.5%	200人	213人	105%	若干名	2人
都市環境デザイン工学科	40人	41人	102.5%	200人	201人	100.5%	若干名	0人
合計	200人	208人	104%	1000人	1044人	104.4%	人	8人
機械・電子システム工学専攻	8人	10人	125%	16人	22人	137.5%	人	0人
電気情報システム工学専攻	8人	9人	112.5%	16人	19人	118.8%	人	0人
建設工学専攻	4人	5人	125%	8人	5人	160%	人	0人
合計	20人	24人	120%	40人	51人	127.5%	人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	45人 (100%)	16人 (36%)	29人 (64%)	0人 (0%)
電気電子工学科	38人 (100%)	14人 (37%)	23人 (61%)	1人 (2%)
電子制御工学科	39人 (100%)	12人 (31%)	27人 (69%)	0人 (0%)
情報工学科	33人 (100%)	15人 (45%)	18人 (55%)	0人 (0%)
都市環境デザイン工学科	42人 (100%)	19人 (45%)	22人 (53%)	1人 (2%)
合計	197人 (100%)	76人 (39%)	119人 (60%)	2人 (1%)
機械・電子システム工学専攻	10人 (100%)	4人 (40%)	6人 (60%)	0人 (0%)
電気情報システム工学専攻	6人 (100%)	2人 (33%)	3人 (50%)	1人 (17%)
建設工学専攻	5人 (100%)	1人 (20%)	4人 (80%)	0人 (0%)
合計	21人 (100%)	7人 (33%)	13人 (62%)	1人 (5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>例年、11月から1月末にかけて、次年度開講科目の授業担当者が決まり、授業担当者は、2月末までにシラバスを作成する。</p> <p>授業担当者は、シラバス上で、「科目情報」、「到達目標」、「ルーブリック」、「教育方法」、「授業計画」、「評価割合」を示し、学生へは、最初の授業でシラバスを配布し、授業の概要について説明する。</p> <p>シラバス公表は、Web上で4月上旬から公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各科目の成績評価の基準は、シラバス上に記載されている。 本科卒業並びに専攻科修了の基準は、学生便覧やホームページ上で周知している。 (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/) 				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
	都市環境デザイン 工学科	167 単位	有・無	単位
	機械・電子システ ム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	電気情報システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
	建設工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600円	84,600円	約93,550円 ～約105,250円	教科書代 (約45,000円) ・実習服等代 (約40,000円) ・美術用品代 (美術選択者のみ対象: 約4,000円) ・スポーツ振興センター共済掛金 (1,550円/年) ・学生会費 (7,000円/年) ・寄宿料 (入寮者のみ対象: 7,700円/年)
	電気電子工学科				
	電子制御工学科				
	情報工学科				
	都市環境デザイン工学科				
	機械・電子システム工学専攻	234,600円	84,600円	約20,000円 ～約27,700円	・教科書代 (約20,000円) ・寄宿料 (入寮者のみ対象: 7,700円)
	電気情報システム工学専攻				
	建設工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本校では、低学年の成績下位者及び希望者を対象に、数学と物理の「補講」を実施し修学支援を行っている。</p> <p>また、鹿児島県技術士会から講師を招き、特別講義を実施しキャリア支援を行っている。(キャリア教育、技術倫理総論、環境創造工学特別講義、技術倫理)</p> <p>国際交流関係では、異文化交流(海外語学研修、海外インターンシップ等)の支援や斡旋を行っている。</p> <p>また、入学科徴収猶予として以下の通り実施している。</p> <p>該当者：ア 経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合</p> <p>イ 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合</p> <p>ウ その他やむを得ない事情があると認められる場合</p> <p>猶予期日：入学年度の2月末まで</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本校では、キャリア支援室を中心にクラス担任、所属学科の学科長が学生の進路について支援を行っており、エントリーシートの書き方や面接指導等を行っている。また、「合同企業説明会」等も実施している。</p> <p>なお、本科4年次選択科目で「工場実習(インターンシップ)：1単位」を設け、学校としてインターンシップを推進している。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本校では、学生の諸問題に対応するため、クラス担任による個人面談や、オフィス・アワーズ、カウンセラー・相談員による相談などを実施している。さらに、これらの機能を補充し充実させるために、平成14年2月に「学生何でも相談室」が開設された。

「学生何でも相談室」は、学生が学校生活を送っていく上で生じるいろいろな疑問や悩み、不安などについて相談を受け、それらについて共に考え、解決の糸口を探る手助けをするところである。学生からの相談だけでなく、学生のストレスマネジメントのひとつとして各種心理テストを取り入れている。また、学生だけでなく、本校関係者（教職員、保護者など）の相談も受け付けている。

相談室のスタッフは、室長、相談員（数名）、カウンセラー（4名）、相談補助員（看護師）である。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

- ・学校要覧
- ・ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)